

輸出事業計画

※申請者名：全国ラムネ協会、品目：清涼飲料水

1. 輸出における現状と課題

- 1953年頃をピークとして、炭酸飲料全体の生産量のうち60%以上をラムネで占めていた（生産量：8万3000kl）が、王冠栓や缶飲料の登場により徐々に衰退し、現在の生産量はピーク時の2割未満となっている。近年の地サイダー、地ラムネブームの到来で、懐かしさや楽しさから再び注目を集めているものの、日本国内の需要は激減している
- 国内需要が激減する一方で、日本の文化伝統のラムネは改めて世界から認められて、輸出が激増し、過去5年で倍増となっている。味に加え、容器の独自性を訴求していることが輸出増の要因と考えられ、欧米・アジア圏等への出荷が進んでいる。また、ビンでは2年と保存期間も長く、店舗での扱いやすさ・保存のしやすさも一因となっている。なお、海外輸出用商品では、分別回収できるラムネは飲み方を知らない現地消費者にとって誤飲の可能性もあり危険なため、ビー玉が取り出せない打ち込み式ラムネであることが必須条件となる
- ラムネの生産量は2014年度3,450万本を最底として、海外需要の拡大を受け、翌年からラムネの生産量が激増している。特に2021年度の1年間では、3,897万本ものラムネ製造数が増加し、全体で11,053万本も製造されたため、ラムネ玉付きキャップの製造が追いつかない状況である。2025年度には業界全体で2億本の生産量達成を目標としているが、目標達成には玉付きキャップ・ビー玉の確保、充填機・打栓機がネックになっており、これらの懸案事項が解決されることで、その結果、ラムネ業界全体として輸出拡大に貢献することが可能となる
- 国内向けの製造を主力としている協会員は国内消費の落ち込みから業績不振が続いており協会員全体の稼働率向上と輸出実績を伸ばすために設備貸与やナレッジの共有等によるボトムアップが必要な状況である

課題

【製造】

- 輸出ラムネ生産体制の増強・設備導入の増強
 - 輸出ラムネにおいては、容器資材の供給が追いついておらず、ビー玉付きキャップ・ビー玉、充填キャッパー不足がネックとなり、タイムリーに需要に対応できていないことから、輸出機会の損失が生じている
- 新規取り扱い販売店や新規拡大エリアも多く年々需要が高くなってきている。
 - ただし国内の対応できる生産能力（特にキャップの製造と資材の製造能力）が低く輸出機会の損失が生じている。コロナ禍におけるコンテナ等の確保が難しく受注から納品までのリードタイムがかかっている現状がある
 - 上記のような課題を解決するためには、資材供給能力の向上や各製造企業の体制強化が必要な状況である

【販売】

- 各国レギュレーションやチャネルに関するノウハウ不足
 - 国内向けの製造を主力としている協会員は国内消費の落ち込みから業績不振が続いており協会員全体の稼働率向上と輸出実績を伸ばすために設備貸与やナレッジの共有等によるボトムアップが必要な状況である



輸出事業計画

※申請者名：全国ラムネ協会、品目：清涼飲料水

2. 輸出事業計画の取組内容

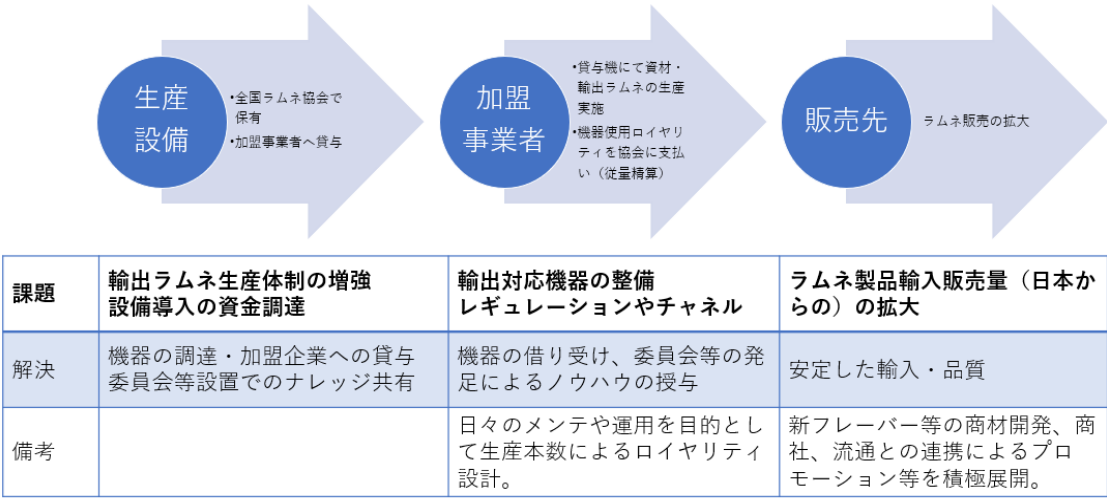
【製造】

- 海外のレギュレーションに沿った製品製造を行うための設備(キャップ製造機・一体型充填機(洗瓶機・充填機・打栓機))を調達し、業界全体の生産量を拡大できる基盤を整える
- 資材の供給能力の向上、ラムネの製造能力の向上を図るため、ラムネ協会にて所有した上記機械を会員企業へ貸与及び資材を安定供給することで、会員企業に公平に製造強化をできる仕組みを保有する
- 台湾ラムネ・インドラムネとの差別化を図る取組を実施する。安心安全の打栓式ラムネでアピール

【販売】

- 先行して輸出実績を上げている協会員が、今後輸出を強化したい協会員と販売チャネルやOEM受託などで連携し、輸出ノウハウを共有し、協会員全体の輸出拡大につなげる
 - 輸出について継続的に取り組みを行い拡大していけるよう、協会・先行事業者が中心となり、外部コンサルタント等の支援も活用しながら、レギュレーションやマーケティング、商品開発、ブランディング等のラムネ製品の輸出量を向上させていくための取り組みを行う
- 具体的にはマテリアルリサイクル・CO2排出量削減といった取組を想定している

参考図：設備導入→加盟企業への貸与



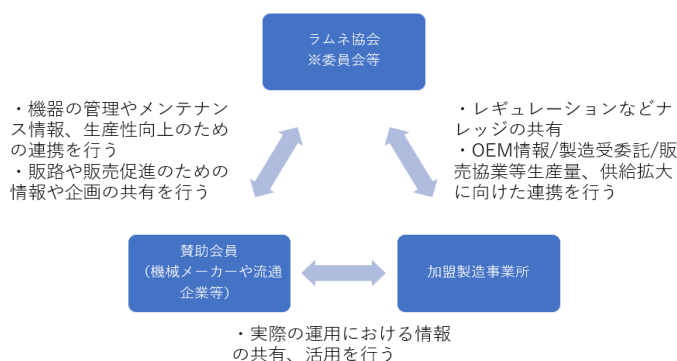
輸出事業計画

※申請者名：全国ラムネ協会、品目：清涼飲料水

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

- P**：協会員同士の現地情報/規制情報に基づき、設備投資計画・レギュレーション対応・商品開発・ブランディング等を検討
- D**：計画に基づき、輸出ノウハウを共有しながら、設備投資や国内・海外でのブランディング等を行い、輸出を実施
- C**：輸出の進捗状況について、JETRO・自治体や外部コンサルタントの等の評価・アドバイスを踏まえ、必要に応じて計画を見直し
- A**：上記の評価・アドバイス等を通じて現地消費者の求める商品製造・改善に着手

参考図：ラムネ協会加盟企業によるナレッジ連携



4. 輸出目標額

2021年現在、77億円のラムネ輸出実績があり、これを2025年には倍の154億円にすることを目標とする。

		現状（令和3年）	目標年（令和8年）
全日本	輸出額(円)	77億円	154億円
	輸出量 (kl)	22,000kl	44,000kl
	輸出先国	アメリカ、中華人民共和国、台湾、香港、英国、オランダ、フランス、ドイツ、スイス、スペイン、イタリア、カナダ、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランド	アメリカ、中華人民共和国、台湾、香港、英国、オランダ、フランス、ドイツ、スイス、スペイン、イタリア、カナダ、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランド（上記以外の他国へも拡大）
	生産量（本）	11,000万本	22,000万本